

## フロー 災害時における人工呼吸器の作動確認と対応の流れ

災害時における人工呼吸器の作動確認と対応フローを示した。フローに基づき、どのような場合に連絡・相談、避難、受診等を行うかについて人工呼吸器装着難病患者および家族、関係機関等とともに整理し、シミュレーションできることが理想である。

また、フローに記載しているチェック項目（口・・・）については、患者の状況や使用している医療機器の情報等によって異なる場合があるため、必要に応じて内容を修正することも可能である。

災害発生時には、下記の項目に沿って患者・家族が対応できるよう準備する。

### 人工呼吸器使用者の状態

顔色や酸素飽和度の値、換気量が著しく減っていないか等人工呼吸器のモニター値を確認する。

### 人工呼吸器

バッテリー作動に切り替わっているかを確認し、外部バッテリー等につなぎ替える必要がある機器は対応する。人工呼吸器に異常がある場合は蘇生バッグによる呼吸に切り替え、かかりつけ医や医療機器販売業者に連絡する。加温加湿器の対応や人工鼻への変更等についてはあらかじめかかりつけ医に確認しておき、停電が長引く事態を想定して備える。

### 吸引器等

充電式吸引器は使用回数が多いと充電が切れるため、足踏み式吸引器等非電源式の吸引器の準備も必要。

### 酸素濃縮器

酸素濃縮装置のバッテリーは長くて30分程度である。停電時は速やかに酸素ポンペに切り替える。

### 電気関連

通電火災等の予防のため、コンセント周囲の安全確認を行い、電気が復旧するまでコンセントからプラグを抜く。避難する場合はブレーカーを落としてから避難する。

### 呼吸・吸引関連機器以外

エアマットは空気が抜けないうチューブの柔らかい部分を折り紐で縛る。意思伝達装置は文字盤や合図等に変更する。照明は懐中電灯やランタンなど、乾電池で動く照明に変更する。

※停電の復旧の目途が立たない場合、非常用電源を使用するなどして、複数の外部バッテリーを交互に充電し、人工呼吸器を作動する。

※ブレーカーが落ちているか否かを確認し、それに応じた対応を勧める。停電時はコンセントからプラグを抜いておく。